



漂流記

寶曆元年十二月廿一日
南部領白濱村船頭



全



西垣文庫
文庫10
6807



神 東
田 京
波多野巖松堂書店

文庫10
6807

漂流記

中華福建省下漂流記の奥州南於者六人

高月廿日松幸青船より送來中より舟翌廿一日

右の者大出出し吟味はし中より相分り不

識たるより舟中於中華被者大に跡流世話は

英福童天栄と申唐人為人是又松幸青船の

意渡り舟計為人出出し修し打船に書中舟の

依之相分り又申不し不唐人たし中に來

事は是上中より但五官と申し不童天栄は是度

以別漂流人中に之執友と申し度



南部大屋大史領分要員盛名部

神宗

白濱村新辰

又五郎

未立孫七歳

同宗

同新水主

保吉郎

未立孫七歳

同宗

同不水主

又三郎

未立孫七歳

同宗

谷藤梅取

利吉郎

未立孫七歳

同宗

谷藤水主

長助

未立孫八歳

同宗

大畑村次

文治

未立孫七歳

私大屋去年十一月四元より出取仕新風遭中

幸福庵省下漂流仕り事高末松吉青和より出
相送十二月廿日由高津下出取仕り舟翌廿日
伊波新下出取仕り漂流一舟方一舟了
出吟味上揚り度下出遣形又吟味出吟味長
妻細中上取執方一通り出度り

一私大屋下白濱村久保屋若く坐取神力丸松
云端帆系組八人積物、堤引鏈岸貝堤艇
了稍解衣未積出、江戸表下為高賣年十
一月十日、朝出取仕順風、同廿五日仙臺
三沖迄走了、出り事翌廿六日院以より、

風活ク吹出—陣—方下吹離ナレ中山風等
2活—打或取危—日帆柱セ伐打中
以打—震降—ヶ風派養リ浪—
折航—中山—水セ—
危角船凌—舟儀物—
松又出渡—
不中河国—吹流—
以前船中—
狭き提—
投入河—

高—
と云—
不中—
灘—
中角—
木—
多—
樺—
粮米—

利りし〜食事〜は居中の水元来云々
此頃修り候う候に度々潮水も流る中
其旨を降し良き物也解致天有せう事
後り取り〜咽也混〜中の水難難は
事一尚二月迄凡下日候て此度也

一二月間〜朝暹〜船〜松あるとの見つけ
〜付是也志〜追付あるもせり候
初〜候〜追付又中〜元〜すらお振〜人
体〜船〜小船也却〜又見河形〜人
高〜米〜付〜松花中〜松花〜形も

数日勞れし上〜庄屋〜人〜松子も
程〜居候〜被者花も松花〜中付
〜中〜秤〜中掛〜糸返り不仕
〜付梳を此〜水也吞〜仕形箸也持候
〜仕形肌湯〜及〜神也い〜又せは相
得〜糸〜上取〜中松〜糸返り米五
袋〜入魔〜小桶〜水を入〜持候〜
〜浸〜方也指〜被方〜米也水也
〜急〜糸入〜中松〜お入〜
〜教〜〜中松〜

定以三付不殘上陸法由是之役不之極有る所
其唯此守之役人神之打見之少との居出河東
之少不味之極子少之淡到矣口下又米二袋薪
相添唐人人良之之本新之積世中以平長一
私方中私之在細居中以

計役前之福項孫之知孫之役前之有也度以計長乾隆帝
南巡至子之杭州府之清洋苗之自友福建之德督杭
州之新之九漂流之漢之文奏聞致之其以之唐人之
中之也

一因廿九日又役人來之船計之若物相改唐人人良
之个債物不殘小船六艘下積計不之之若積下計
眼投下之極有る不之役之入中以共前伊古郎

右之役不之不速落之極子見居之世之也

*後之官庫之別役所之務之中若物之必少委細之書分知
府之知府之福建之德督之若出中以中官中之也*

之之後右荷物之自堤船堤引船之皆廢し以之

有之之用建以神之不之之以分唐人人方之若也

得賣拂し以之至高之書分改之又去高海高

之見世中以委細之役不存不中以若河東之唐人

之若之若一自之打江也若重中以起之長代淡

相渡之不中寧波之信公具と中者下役不之

相渡之唐國出船之初右之淡渡之也

一因十六日私方八人不殘陸上上之極也中分也

和も在りし事左和頭又為郎物文活為人其
相預りし和之残在在亦云人者の上陸は
町所し之月家尾膏るる事不之石を浦に
寺る亦又入並由道具類の及沙持上りし作
寺校書御床より以上より寺を致し計上
存在の青人三夜に人附副調物少く用達
吳の如朝夕の和者由黄にしし大根菜豆腐
切と黄のの漬物しし調達しし由夫より十日中
も過りし又高文活より上陸は一事に
計方明和の海人唐人青を付し初より不之繫き

一 並し計前より月日と道由は

計所在の家の館驛と申し日切の藤籠屋
也度は附添のとの千總と申し初夜は也度の
青もしし又用其の為し附並し事なる也度し
又官中し

一 二月廿九日より残儀物並由道具類並唐和
下和積仕月日人及沙唐和の事也
固し被入附添の事も被入と見し和或被附
副フケニし渡出和仕計不系離を以る被入和
却被不碼陸す付送し不之和繫い
是送し居の松子なる也度の和者意の和の帆
南の方上と云りし但此和の高和よりハ小

送る船不同米よ世渡り云々
改め足は下く一昨日和待仕人
も又一人家のおき下すも
お繋中云

此船の官船なる見届く
出船を以て是を見届の上
取船云々の様へ夜人の
知船云々の様へ申す
官中云々の様へ

但私舟云々の日申船の
具物及具船概類とも
之を待てる右居申す
賣拂も是れ申す代
取の初迄申す方
お渡り申す

一月廿二日エモンと申す
お渡り申す

エモンと申す厦門の
エモンと申す中
お渡り申す

右居申すフケン
お渡り申す

崇寧より厦門へ
お渡り申す

計不の長崎より
お渡り申す

お渡り申す

お渡り申す

商人來集いししを馬路と申しけ所とては津又繁
昌といふ大馬路と申し申す官中といふ唐人に賣るる日如
大坂と申すも大馬路と申す

家居を介し善徳フケニ松子と相遠之也度以郎
日又五郎作七郎為人三益之固く役人跡跡上落仕

役所へ松成ありて来り申す

此の度門の海防と申す役所へ申す海防の官は控院と
と同等の事キ役所といふに五官と申す

け役所ハフケニよりと大ク大門又衙門と申す
之常ハ決シ然る日如之門に如ク治りてより

出入仕

衙門と申す官府の通り門と申す平人の通る事不
可申す申す官中と申す

門より内と皆浦石と申す白洲の松成所へ首楯

さうるといふ松成との敷くより決抱るとも相見

申す

け所ハ公事孫伝亦都の吟味と場と罪人等も傍同
致し申す申す官中と申す

は宛初りより守キ人といは見入る申す役人孫成に申す
吟味と松成事と申す申す後大勢と役人より

孫成事と申す海の上松成申す

宛初り役人の海防と申す役所と申す官中と申す吟
味と松成と申す後海防孫成と申す申す官中と申す

一 因申す日行揚ケししと松成と孫成上落仕の町

と小坂寺の鞍と申す寺の落着申す申す松成一人

下は二人より出た方へ其際活き遠く
行く持て名をペイシユンと取り出した常々
唐人より唐の不信を重んじて佛蓮
苑の唐の香燭も備へて其の意旨に
依りて毎日線香を立続洋し
し中

*廈門より敏沢寺の分派洋海にありて寺の堂に
寺号の報國寺とありて不佛と釈迦とありて
と堂のいはれ持て名をペイシユンと取り
てペイシユンと中し中し*

朝夕のものは又も其より魚物菜類
海人居すに計敷く如く長はるる
中か居るに計敷く如く長はるる
中か居るに計敷く如く長はるる

某日十日深夜に積り米の給へ切ら
後よりお渡すに花フケシ
後人は深夜に人宛書に附添り
用事や事

- 一 系祖八人より國元大坂に理法
案領より米の利益と申す年以
五月二日より腹に腫れ病氣
跡流し後人下中世に瘡治
安醫師友人足とれる脈を足
茶とて能持せ半一月の減

病室の鼓脹しては醫治を乞ふ人ともは官醫の中

此醫階の上より病室を告せし事も甚重なり
之を告げし中より其の相款し給ふ食息之致
于後不致而業也其病中より修し食事も給ふ
候し脹し増増十日に病死仕候時附
副し青人下相届りては設前下止しは設人
来り死骸をお改死重し候所より方不可
松子にお見し候所又五郎頼の候し一宰候
此得し方より一取重し度候書付又仕候
候し候所より設人推量ありては香
候し候所より

子高松の松子少居り候る候所の中

改之候人の内使し候し目附候あり候し中
五郎頼の候し

夫より私とも等しお寄昂日取仕上又五郎
不持し謝書の日切候之要文等候し候持
をお取候所候物亦入用し候し候人
唐の寺より修符隔り候し候人
墓石多
あり候し候し候し

棺の度門の町より平日出来候し候人
百姓の中五郎頼の候し

子高松持し候副子候中より得し候し候
分候等し不續候し候し候し候し候し

以佛者、香燭菓子亦海人、尔より回極必、
所、出家之人、来り、木魚古、被証、亦、あり、し、備
經、し、し、中山、修、し、後、持、下、布、施、物、と、し、て、日、中
淡、五、百、文、差、也、し、中山、

一 閏五月廿五日

唐國、高、年、五、月、閏、月、高、計、方、一、六、月、高、也、度、山、計、未
六月、高、也、高、計、方、一、閏、月、高、也、度、山、
附、係、山、役、人、私、共、也、時、日、私、一、高、也、三、ホ、下、也、山、候
在、書、付、し、し、中、渡、山、聖、母、之、日、高、形、私、共、也、候
系、和、辻、系、物、未、之、積、高、也、高、不、一、役、人、之、人、附、係
昂、日、私、不、出、し、し、中、渡、山、之、樂、居、中、山、

計、私、共、砂、糖、在、積、之、南、系、高、賣、し、し、民、私、共、也、私、主
之、印、氏、高、也、度、山、附、係、一、役、人、之、差、官、占、中、山、一、度、門、之
提、督、之、書、付、在、積、高、也、高、不、一、役、人、之、人、附、係、者、高、
也、度、山、中、五、官、十、之、也、

一 六月朔日、計、不、出、私、し、し、南、風、一、个、走、り、出、し、

山、計、高、一、見、送、り、し、私、共、也、一、地、方、也、又、見、在、之、時
在、系、三、ホ、下、也、私、共、也、不、吹、候、し、吹、風、高、也、是、疾、也、也
之、走、り、中、山、計、一、里、敷、不、し、し、私、共、也、一、又、
私、共、也、中、山、

度、門、より、寧、波、と、一、里、敷、六、十、更、候、也、一、中、山、官、中、之、也、
一、更、と、中、山、唐、國、一、六、十、里、敷、高、日、中、一、六、里、敷、又、私、共、也、
中、山、六、十、更、一、日、中、道、法、三、百、六、十、里、敷、一、積、不、也、
度、山、

系、組、之、月、水、至、計、六、と、中、者、六、月、二、日、計、私、中、也、

痢病故付中川流其和沖不左道子も二も一葉も
相見ひあす存在ひ

一 同十日是付三ッポく渡りて是和は

三ッポとは寧波く事々々寧波く二字南京音く
ニッポウと云ひを是遠の事と云ふ人の中

計不工モシよりいあーおとる若くは大方長
崎程又相見く中川係賑成不る也度は唐和程
多きく出和入和其之大方和程宛も多く山も
多相見く和の係程大キなる川中モあり也度
是和之即日和人和和の事あり和を呼出
相改りては和の中

計和人の寧波府流海流く是官事く也度川中モ
中へ入江る桃花流と云ふ申す官中なり

今日又又舟浮士舟為人改上陸階添ひ和人
一月為人案月少く可並く自門梅く大キ成
家名同遊いりり河中く中付りる若くは中

是六十き青和あり信公身く家事く也度は流海流
又和和いりりりりり信公身く中河
又和和いりりりりり信公身く中河
也度は流海流

同十二百七人一同の上陸は也く寺下前付和
二階之河舟いりりり河舟く出和為人服禁の
唐人去人けりりりり二階又日中道
秋如く木佛中流く像去神香燭佛具未

千舟名も取木津敷多り

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の
トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

世に未だ

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

振賣を御中

一 因十日自三三少く取不下此の吟味し、松子そ外
取不し神門の頼侍り、道具おとエモシ、

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

トシスといふは唐人の名なり。此度の日中通事と云ふは、
天竺の地味水所之友と云ふ善薩も安直なり。此の

悔り日中朝少く一週し以事におぢる申す

一 行の紙上読し後病重候しお守り以舟トシテ
 病あり方下中道醫者をこけ瘥治仕し海とも
 使之し序に序を醫者を探人申し惣神茶不あ
 方より差紙出第一紙一嘗日中余七八紙も

水加減は大方日中一紙の茶甚濃矣申す
 久しし醫所の信公無おれ官醫申す
 張光寺王光寺因光寺と申し申す官申す申す
 初め醫所を奉る申すおぢる申す又人申すおぢる
 一紙の茶を申す信公無おれ申すお果申す
 相用申す一英福申す一茶方申す書分抄居申す申す
 帳にお記し申す申す

一 九月廿七日病あり方下病愈明日余和可致首

後下より此後舟中申す病あり方下申す
 物賣拂代物申す浪子淡木相濟且又和費衣後
 被毛掛し申す左平屋申す日中御園仕出申す不
 申す不申す又苦憂申す申す
 日中此之仕本編若物申す宛七人申す
 給し又後下より申す申す
 出高津より申す申す
 國より申す又一不申す申す申す
 高松寺青取下申す申す
 仕下十一月六日申す申す

一十一月六日三ッポへ渡出船し三日斗を
テガイクワンと申る商家五十斗も多し渡
船を入申

テガイクワンとは琉海關の事と云ふ遠の山ありて海渡の
寧波の内へ津浦にてお敷七下船多し山に下りて因守
とて冬那お後舟申す官中と云

埃不し青不し役人入勢兵也唐人并私とも
と人別改姓名歳分亦して帳面之書向船中
神相改申し青不し神志工モ三ッポ等し船番
所へ通し子相見申し但し不し高賣し
し山形不し改せ徳山船中お繋りし松子

此度山に色不部而塩濱山々塩竈相並の敷不
山方多し山影赤事と山度山塩梅一松子
日切し仕形とは少し遠の山形と云ふ先小
船を掛ヶ金乾キたる砂と云ふ事上より潮を
汲かけ申し小瓶の山山竈と云ふ山形と云ふ
とととお見入申す

塩漬の事と云ふ塩場と申す年方河下奥国と申す塩
高賣り多し皆に南に積送し申す塩を申す塩
動法宛の事と申す塩の山形と申す塩の山形と
浙江の塩道と申す役所と申す支那と申す山
中夜を申す塩の山形と申す塩の山形と申す
左も右も申す塩の山形と申す塩の山形と申す
山形と申す塩の山形と申す塩の山形と申す
山形と申す塩の山形と申す塩の山形と申す

一 翌日デガイクワン出帆し、一、二日不風悪毒長走、
相成り申し、小舟人家等、小舟に之口、不可相察
申す、相地、方、宗、羅、越、山、より、一、句、又、楚、場、云、
是、長、方、又、走、り、西、風、吹、来、り、風、志、帆、起、り、き、帆
亦、あ、り、申、す、申、す

一 十二月二日、北風、吹、来、り、天、第、二、日、を、中、待、と、申、す
見、掛、け、宗、越、山、良、急、と、向、風、活、吹、来、り、待、と、海、に
方、北、吹、来、り、北、風、大、帆、に、相、細、也、也、申、す、申、す、
合、切、相、風、活、く、し、く、相、細、活、付、重、の、船、端、に、腕
木、九、尺、斗、吹、打、帆、う、ら、廻、り、出、附、眼、を、修、る、申、す、唐

人、く、胸、板、に、打、付、け、を、修、血、を、吐、打、即、申、す、
以下、警、取、事、疎、不、入、引、入、出、均、方、に、祝、相、果、申、す、
*此、の、疎、依、觀、と、申、水、舟、の、由、度、の、早、傍、の、事、を、
唐、人、の、四、傍、洋、と、申、の、天、草、傍、と、傍、示、し、津、と、の、
石、の、由、先、キ、は、大、く、温、甚、キ、甚、夕、云、け、数、瀬、戸、
の、由、也、*

一 舟、疾、く、風、信、活、く、傍、に、津、に、入、口、に、吹、伏、付、り、舟
唐、人、と、も、碇、せ、入、り、得、た、事、不、石、地、に、て、碇、不、し、
申、す、舟、後、山、に、方、北、吹、来、り、唐、人、を、津、に、修、
之、被、是、は、月、天、草、より、也、彼、人、元、大、勢、也、也、小
船、数、十、艘、集、り、浦、内、下、事、也、也、申、す、申、す、風、活
く、有、り、一、句、又、楚、場、云、申、す、申、す、是、非、元、之、不、也

相繫中の海唐船の木破りきり中にも人私大
不持し鉄板二層天草より鉄板妙房大徳大
く持来致致計分可沙抄此のいと潮船を好業
届中いけ不送届中一書私を渡宛書差出至状
いより可くいと水薪口より度致積せし

一 傳云病室船中別向不相勝し舟私を財割
沙くトンスイ子官の安人自牙薬や黄一深
切又女抱しし一吳中の海とも可書又お妻高月
十日物生以病死はは依の私大書分を以天草
出役人中いけ旨出届中上は如子速出役人死致来

死骸出改の上桶入小形に卸始終音人附至中
一 昔十九日疾九の時分天草傍の津岸出一一淋
戸内系離れいより帆を引沙文の帆風を个壁
舟日八出舟出くは高津のきり出中

一 私大唐國在届中一私宗の二幼り又自は依
と向向佛焼養佛像佛具敷改の足高の一字の
子外依の出給可担は依大の舟不中の在足子
不仕候可多法障は被是少宛先死立し子大
形又中上りの

一 在届中通系の事一向坊明の事一可事一也

志願して用建はるる日保士昂き人か一斗
文字や板居中の筆待少く物一通りも
此度の三ッポ少く一日中穉少く安んじよとのも
多し一通り一通り中トス一日中穉是人の物
是又十二三の位ありて不用建の中

一 衣服之事 日本は其の國を標とも一斗重き人も
その人の衣も長襦袢の末の唐人の物も相違を
此度の地私終り足利の物も光輝の装束少くかよ
り物も同前より此度の上等珊瑚珠も少く見
事成五の層り多し物に飾り物も少く見

此の極是る所は其の差別も多し此のとも好
居中の係左衛門の子細も此の地の女に衣
被るもの此の地も此の地も是の中

一 食物之事 飯茶酒那醬膏油亦日本に通じ此度の
味増えよこの地の野菜者多し此の地
此の地の物も初より此の地も其の國より被る物
出料理也此の地の物も此の地の物も此の地の物も
亦亦此の地の料理は此の器に飾り亦日本に
此の地の物も此の地も此の地も此の地も此の地も
是の地人より是の地も

振興の業は政所の如府に政所を府に自分より一作
池を十二腕菜の如く置るに在り人々知府
の如く置るに在り唐人も知府に置るに在り
の如く置るに在り唐人も知府に置るに在り

その後又五郎文治上陸政一に及人も政所を
出はれけ首の酒と腹に汁をくく勿論置るに

素も平山度也

け所を及人形に書を政一居しゆ人の方より初の人
よりの中者なるものとのお心海池を遠の島に置るに

工モシシポる政所振興の道中ハ三シポるに
大世話三政一に格を青取首自信に與定ら
政振興を傳中ハ初めフケシるに素も政所
の如く置るに在り唐人も知府に置るに在り

有く政一に中政一はその後ハ用政一毎も政所の
聊尔と語中ハトンスイ海の日本人に食物能得
ゆけ所ハ分ハ政一は政一に池を及内政一切
茶酒菓子之腐時菜於魚類の如く置るに
政分ハ政一は政一に池を及相見ハ中ハ

け池を及十二腕の如く置るに在り唐人も知府
の如く置るに在り唐人も知府に置るに在り

その後トンスイの方を料理を政一寺人持来はる
持も相伴る私共を振興中ハ何持も一政振興
中ハけ首ハトンスイ相伴政一にけ首ハ何持も

類内類の寺の如しホより系松く二三日前後美
と一ヶ月前より方へ又く振出を承り申計附を
和主財副トシスイも子職夜食振寄る出度料理
の家初に通了退分を入申奉と相見申申
計夜食申申以候別振出る卓子之御十二候料理申
多申申個十二候と申奉申申此の定上申申貴族子申申
有申申の振出申申遠出候申申申申初申申在申申
食振寄る相見申申申申申申出度料理申申申申
この用公仕一向申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申
文之候申申申申

一 家居申申申申申申申申申申申申申申申申申申
居申申申申申申申申申申申申申申申申申申
皆浦石申申申申申申申申申申申申申申申申申申
遠申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
相見申申申申申申申申申申申申申申申申申申
根申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

松と比度山日本と皆以東ハ之ヲ不有付還二向
と云禱くとすも石と浦詰兩天にも道一思安子
之を皆とて付來仕也

一 古地ノ東一渡ノハ大方名山ノ山ノ木ノ
前ノ山ノ寺ノ岩ノ多キ山ノ不ノ相及ノ中山海ノ
初ノ山ノ松とは遠ノ基ヤ下ノ山ノ沖も浅磯
徳寺ノ山ノ石ノ少ノ中山磯をノは水ノ舟ノ留
壁ノ古松をノ目ノ下ノ松ノ水底ノ泥海ノ松繁
場ノ皆を渡すノ比度山度ノ海ノ山ノ方ノ水ノ
ノ比度山川ノ大小ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ

船ノ比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
不を船中より見中山

比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
後ノ寺ノ山ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ

一 茶本ノ寺ノ山ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ
比度山川ノ寺ノ多ノ尺ノ寺ノ山ノ三ノボ

神杯も一切見取申上るるに及んく一宗通るりしを
見申馬道具の日ある遠のきしと徳すても年
少しいか

一寒暑風雨一素一私考止不よりハ惣神候年
一々暑雨ハ急流ク此所ハ雷ハ度ハ略り申上る
一前以素ハ取申申地震ハ終ニ云ハ曰五年一
一前切ハゆるい素ハ云ハ中ハ度ハ在局中
一太風大雨ハ素ハ素ハ云ハ方ハ云ハ云ハ云
一とニシポハ云ハ云ハ臨ハ申上フケニ云ハ在申上
ハ度ハ云ハ臨中ハニシポハ云ハは高素より早ハ大

一川候ニ及ハ申上取知仕ハ

寧波台州温州杭州ホクホク地高年二月より九月まで
一雨降不申田畑早候ハクハ人民飢ニ及ハハ香寧波ハ
一控督兩乞一ハ女常ハ人界ハ一與ハ云ハ人ハ云ハ
一素ハ云ハ毎日就玉廟下ホ儀致ハ云ハ香在禁キ礼
一洋ハ云ハ五を新ハ中ハ云ハ儀キ一ハ和尙張師ハ
一多ハ云ハハ柳ハ枝ハ地ハ云ハ云ハ云ハ云ハ云ハ
一玉廟ハ延牌ハ付ハ五湖四海行雨經玉廟ハ書記ハ一前
一ハ割宛ハハハハハハ委細ハ云ハ云ハハ

一昨今一素一五月長ハハ工モシクハ在申上日中
一水ハ軒ハ艾蒿蒲ハ香申上ハ糲ハ極申上
一素ハ包ハ候ハ和ハモハ夜ハ云ハ云ハ
一ハ候ハヤチハ日ハハハハハハハハハハハハハハ
一又ハ角香ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
一昨日軍ハ極申上ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

打る衣類悉く一以唐人衣類新之衣より松子也
見中山河津より小妻候に松一両中

取軍と中津と列親一被し示能千人宛取せ不親取
新尾を揃へて其の旗を立示能千人宛取せ不親取
水を切き右後を争ひ以て事を競演と申見物
少少の息苦きと後兼う多あし以て事を右に取せり
五山判親と執意とけ事を以て以て其の福慶を
り以て中津の年々必あし以て度門より福建の各不皆同
以て申す友中より以て判親と長崎より申すの故に申す

七月九月の長白のたつ海より河津形より松子
云出度山

七月七日の乞巧會とて酒肴を以て粟牛織女の二星
を以て朋友會中より九月九日の登り茶羹の湯を
吞り兼う中津の年中より以て者ともは左候に申す
不申す海と松子の中

盆中ハ三ッポくして在り月日ヶ旅者二階より
又此の盆は白日寺に松あり不又不町日ヶ旅者も
通く燈籠に松あり相も以て松も松子の中
盆中ハ其の蘭盆會と申す信妙の家は燈籠を以て
草の燈も申す以て申す年中より
松子旅者寺より日中松子旅者候と致
一松子一向寺より平日の毎に申す

関帝廟より河津も申す以て其の寺に媽祖堂とあり
旗候免も申す以て其の系祀とて墓系を以て申す
七月晦日一夜は其の家にとて燈籠を焼く
線香を地子とて盆中より申す以て松子旅者

存不中由

是の地産蓄蔵の系乳
至平より格条を灯
係書を地上より
格条の中

一 唐國産業の事
多岐多岐存不中由織物并
大工船泊一切法藏人々業致し以不終て足不
中由始終海色を居中由漁船釣乃令引綱亦
持通し以不中由下りて足切け以好夫是又許
業不見不中由外名儒名醫名画終書亦一
切新藝の格条格条分て中由も至り以人足
安た又足仕以熱神人々貧福の安居衣被亦と
相形れ以格条日切て返りて以度以以むさ
其

乞食も多り以三ッポ少り高年旱族
肌履の付被乞神の数の多お見へ中由極死
人をも多り以格条中より大和に渡り米を
候
也一肌人な救米少中由格条取中由

肌履の事一總督より小系に奏
湖廣より格条一以中由又中由
米穀廿万石

一 五穀耕作の事
是又委責候存不中由米も
ケンエモンミンポともさき歳々
二月仕付五月刈六月仕付十月刈
以中由お見
以格条の
以格条
以格条
以格条
以格条
以格条
以格条

年中に米ありては福徳亭波平の
一歳に一歳に一歳に二月に
三月に三月に三月に三月に

粟稗大豆大麦赤小豆高麗
田畑桐子大新日中
骨を焼灰汁に大肥
骨を積上りて

買はれぬ
けぬ大
用いぬ
菜種
但し

三法
糞
子外
尺高

一
け方
五歩
米

青
之文
中

中

米並年平半ハキキキク九文松文積宛致一ト片
子友中トトハ

銀也ハ積打場中ハ取取中買物ハ却向積トケ元

せリ結ハ

平半積キ乗文ト銀積及ナリ積キ乗ケイ合時トニウ
宛致トケキキキキ子友中トトハ

立向中总後ト大木綿給キ唐人总物キリ

代積下積又皮ト唐塗枕キリ拾六文水半ト積

一枚松云文物ト唐木綿ハ尺斗ト風呂敷キリ

七松又掛介ト少宛高用個中ハ物カ世所ハ完

取中ハ大栗有ト通ト世所ハ

一 高附ト帝王ト信美唐國ハ及中ハ不世トケケ

治乱ト取沙治和ト和附取中事取一向取取中ハ
喧喧ト論法至者ホリト以美号又是年及結ハ

一 右之ト取方港ト取和政ト青不志ト白キ下積

を建至者ト取小和数下艘察至中ト取取出取

トモト青不ト取取和切ト取取取者ト取

一 改也積中ト改取取取大勢ト取取取取取取

取ト取取ト取取取取取取取取取取取取取

斗ト取取ト取取取取取取取取取取取

付青朝ハ崇退ト取取取取取取切ト改取取取
和ト取取取取取取取取取取取取取取取取
の積ト取取取取取取取取取取取取取取

一 工モシ海を過り切石之口大島之上向右右之面
を石ノ塔を造り百之口大宛于其ノ上之
玉崩ノ石ともて中ノ大石火矢之ヲ沖ノ
差向テ並入ニ至中ノ工モシおろし小塔ノ
所ノ改ニ進出前ノ中ノ如書不ノ版子も亦
トキノ大筒ノ所ニ至ル

一 シボノ西ノ方町所ノ寺ノ中ニ平地ノ基
高キ塔ヲ造リ其ノ塔ノ造リノ丸ノ七重
ノ中ニサハ河女ノ如クノ唐形ノ帆板ノ之健
斗もし一ノ如ク打見ノ中ノ如クノ差向テ

極子も之ノ口ノ新板ノ委我ハ見ル中ノ如ク
塔ノ如ク板ノ板ノ如クノ中ノ如クノ如ク
物トシテ板ノ中ノ如ク

此塔ノ天峯塔ノ中ノ如ク明朝ノ如クノ如ク
八角ノ中ノ如クノ土地ノ不伴成事ヲ不風水
以テ板ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク
中ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク

一 因五月工モシ道箇中ノ如クノ如クノ如ク
付ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク
軍ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク
中ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク
計無ニ中ノ如クノ如クノ如クノ如クノ如ク

卯小旗も多くありては二条の山といふ一人も
之に皆歩利三少くそ月弓を指しもの斗一具
是を意中の矢不射なりし時大銃炮の第一と
相見く玉可しと敵者お放し中旗キ捲く所
成ものを指しとのもろく刀を指しとのもろく
刀の柄を指しと大キある笠を指し中旗此者
又二人一柄又集りしと笠を指し柄を指し一人
い人の隠れく一人中旗を指し柄を又笠
を指し一切中旗柄を指し場不行眼を石を
以基よりそ上又六七人上りて敵を打倒し

を吹撃を振り中旗を差込み隠の進退は
柄子柄を指し中旗を指し眼を十百と五百斗
とお見く山頂下へ柄を指し幕を打廻
し中旗一人大勢ありて柄をお見く中旗旗を攸
捲刀を振り具は柄を指し柄を指しとさく
いしと柄を指しと相見く中旗柄を指し
今この音は終始中旗柄を指し数万人を
そ月私者を指しと柄を指しと柄を指し
見中の旗を迷惑する所へは中旗柄を
指しと柄を指しと柄を指し

面影りし者ありし其の名れをたせきと名けし序は
日中人也も松院の足名にありし事ありし其の
松院の種もくは瓜の種故もくは松院常より八人
異の妻は、高より得ともけ前は見多し、為馬上下
兼達の細代薬の軍波く提督に連り出下は、其の
少其の弓を持り、冬取副將の武官ありし、石火矢の亭
至方より松院は、打ちし事あり、石火矢を仕置り、其の
言くは、松院は、用意致し、事ありし、申委細、其の
事ありし、

一 之々不之在尚、内女也、見中の事、終之、其度
形、以得、日本、の、と、く、女、の、少、く、出、の、事、と、い
ゆ、一、其、中、の、中、有、る、一、宅、に、振、寄、り、来、り、し、前
も、如、お、見、く、其、中、男、世、常、と、名、取、の、初、少、く、女
子、其、松、歩、初、の、不、可、く、又、一、見、中、の、大、如、く、不、修、又
書、以、松、有、る、形、と、く、髪、の、花、に、松、有、る、若、松、の

松、成、り、の、も、若、居、中、の、男、一、子、其、の、形、と、二、不、髪
を、利、し、油、一、切、り、物、の、事、一、衣、服、寄、り、出、り、
五、日、不、隠、分、と、く、其、の、歩、初、松、大、松、居、も、度、
来、り、し、一、つ、つ、を、仕、置、り、し、松、有、る、事、と、い、
得、其、名、大、の、来、り、中、の、松、神、一、松、子、日、切、
子、其、と、若、く、一、髪、り、し、松、も、云、也、度、の、

一 高松き香取若白信公興宅ハ三ッポ、一町中ニ
一、私、其、松、居、一、寺、より、八、町、半、隔、り、し、門、松
月、个、大、き、有、る、住、居、二、三、十、人、く、一、人、出、入、不、絶、男、上
直、哉、お、見、く、中、の、

信公興兵と云ふ附くは其の被是内外五六千人等
中川中一黄福中云々

私其振意之存誠以影二階人通一終之櫻
幾や出—食末—叔後然—終少—終人—中
疾中—終翁—腕福を之—中—府表—松子
徳道具敷却而河沢有る松子と云々

一 其物—末—三—ホ—今日—仕—三—本—綿—是—物
きり宛路—其—中—山—平—平—之—之—不—道—留—中—一—階
派—入—又—不—思—分—又—末—以—取—人—何—も—た—を—二—入
子—女—依—候—扇—子—揚—枝—耳—搔—也—一—敷—也—一—つ—
持—来—し—つ—一—吳—中—山—平—平—私—也—也—名—物—之—末—以—者

も右—敷—也—宛—持—来—し—吳—中—山—平—拾—一—番
私—系—組—一—唐—人—と—も—終—く—右—一—通—又—終—キ
不—吳—中—山—平—より—終—中—重—山—銀—牌—

叶銀牌の天子の賜物也日切はも見世の末なる漂流
人常又首を揚げて居り候はし十分らるるは是也也也也
この首を揚げて礼をいし—の末—の終—中—教—以—北
系より官人持来し—一—福建—の—徳—督—は—お—濟—一—吏—人—終—
又寧波の如き—お—濟—一—の—末—の—終—中—教—以—北
終—也—も—五—尺—の—親—也—一—天子—の—下—の—用—の—也—也—常—唐—人—も—中—の—

系捨日中私—舞—代—銀—俵—物—一—代—談—且—又
日本仕—三—又—致—一—山—本—綿—着—物—終—く—一—き—り
宛本綿—也—と—人—三—つ—是—亦—も—取—不—す—り—終—中—の—
よ—一—の—一—三—三—ホ—系—私—一—初—終—至—方—より—相

渡—中山以外迄るより送る物本編類
書物未別紙書分—通る目録を抄流す
一同又相渡—中山

一唐和意の松和船の神日中取より其の
ゆるく帆を引ひゆるめ極く帆を
下すゆき波をよそし日中取の帆下す心
帆耳よりゆるく小艇を引ひゆるめ極く帆を
上り風を換きより中山和意より懸り
勝り極く唐和船の意より危き極く其の
為去極く抄流す其在中山相流り月さん人も

中取の意せ上りより其の外も其の中山
は拾人中より左より其在船を揮返は
其前より其を其の中より方計を納め
燈—舟乗を改—是夜より計を其の
お考へ中山和意日中取の計をお成雲の極
この函より見かけの帆板より上り
と見届の上極く山と中取—お知れ
海を和意より銀三指目視着とて其
和神—若くは其の和意と其の和意
紙を焼き羅を抄和中山又残禮并は其

二月相替りし銀を仕度し

日切り山形より及人の玉子銀を仕度し
以東を仕度し花銀と申すは銀依の事なり
仕度し
惟りとも一書又山形を仕度し
以者より其の事
仕度し

一 和とも國元出和の筋より一切の武具類も
積寄せ申すは但利を兼又五郎あ人眼差一様
宛不持仕は計月利を請振差の源流に前之
願ふたれ海中へお込申す又五郎眼差の終
止放し申すは度持届り申すは計日申金銀
持来仕は仕度仕申すは計別利欲
一一免り根買物毛取不仕は持届り

諸色仕度仕改を傳し申すは
仕し

右之條より少茂相違不申上は以上

寶曆元年辛未十二月廿八日

東都培達隨筆斬
大窪生碧藏書

大書...
...
...
...
...
...
...

早稲田大学図書館

011688990574